

## 5. [医療と保健の融合による健康づくり拠点整備事業について]

木次町会場（チェリヴァホール）

Q4：市長の言われる効果は評価、賛同するが、あまり周りの評判はよくない。ひとつにはお金の問題がある。

Q5：去年の市政懇談会などを聞いても、拠点施設については良い意見はなかった。年間5万人利用してもランニングコスト6千万も赤字が出るものを作る必要があるのかどうか。温泉の効能が良いという意見もあるので、雲南病院のリハビリ施設を海潮温泉を使って一体化してはどうか。

A：加茂B&Gが6～9月の4ヶ月動いており、7～8月は月4千人来られる。×12で5万人。県内8市の類似施設も概ね同じような状況である。宍道の来待B&Gも盛況で5万人をクリアしている。そういう施設がこちらに出来れば、宍道や上津、奥出雲、飯南から来てもらえるような拠点の役割を果たす。と同時におろち湯ったり館や三刀屋健康福祉センターやケアポートよしだをサブ拠点と位置付け、これらを結びつけてバス等を走らせて他町からも来てもらう仕掛けが必要。年間4～5千万円の支出が必要ということだが、自治体で作った文化施設、体育施設で儲かっている施設はまずない。雲南市でもスポーツ事業や文化事業が他市と同じようにできなければならない。そのためにも健全財政を確立し、たとえ赤字であっても市民がしっかり利用できるまちづくりができないといけない。このことを理解してもらえるためにもじっくり時間を掛けて話し合いをし、納得してもらえるよう努力していきたい。（市長）